

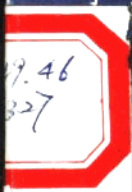
中国医学名著



鲁兆麟等点校
辽宁出版社

儒门事亲

金·张从正撰



中国医学名著 编校委员会

主任 鲁兆麟(北京中医药大学)教授 博士生导师
委员

北京中医药大学	王晓兰	王新佩	石学文	张宝春	张莉莎
	肖诗鹰	陈赞玉	图 娅	高春媛	黄作阵
	韩 平	彭建中	谢路山		

黑龙江中医药大学	张士英	湖北中医学院	傅沛藩
广州中医药大学	邱仕君	湖南中医学院	易法银
河北中医药大学	刘美文	浙江中医学院	倪世美
南京中医药大学	徐荣庆	甘肃中医学院	王道坤
山东中医药大学	张谨庸	天津中医学院	秦玉龙
辽宁中医学院	易同飞	四川中医学院	邓中甲
陕西中医学院	任春荣	长春中医学院	南 征
河南中医学院	袁占盈		

点校说明

一、《儒门事亲》是金元四大家之一、攻下派医家张子和的代表著作，集中反映和体现了张氏的学术思想和医疗经验，真实记录了许多值得借鉴的医案，对后世医学发展产生了深远影响。但本书自梓行问世后，刻本繁多，仅据《全国中医联合图书目录》所载，就有二十余种。本书在流传过程中，虽屡经传抄、翻印，不同版本互有错漏，但内容基本一致，故总校时选择现存较佳的四个版本作为点校底本、主校本、参校本。

二、底本：日本正德元年辛卯（一七一一年）渡边氏洛阳松下睡鹤堂刻本。主校本：《四库全书·儒门事亲》珍本（简称《四库》珍本）、清代宣统庚戌（一九一〇年）石印本（简称清石印本）。参校本：《中国医学大成》本。

三、本书校勘采用对校、本校、他校、理校四校合参的方法。原文中的脱、讹、衍、倒诸处，均作补、订、删、正，并在所改动原文处的字或句下，以脚注序号（①、②、……）标出，页末出注说明。

四、书中引文如与原著文字有出入，但不失原意者，为保持原貌，不作改动，亦不出校记；若与原意相违，则予以改正，页末出校记说明。

五、书中明显错字，径予改正；常见的通假字、异体字，一仍其旧。

六、书中疑似之处而又无据可勘者，在原文加脚码，页末出注说明。

七、书中有关咒法等视为迷信色彩的内容，为保持本书完整性，一仍其旧，不作任何改动。

八、书中图表，依据原图不作变动。

九、书中“右”、“左”，为符合横排版义，径改为“上”、“下”。

点校者

一九九四年六月

新镌儒门事亲序

一气之块然乎，太虚之间也。氤氲摩荡，以生生万物。而其禀之驳者，为禽兽，为草木；粹者为人。而其粹者，亦有厚薄强弱之不同。加之六气沴乎外，七情侵乎内，而诸疾生焉。有寒有热，有表有里，千状万证，不可具述，而要之不过虚实两者之间焉。故经曰：虚则补，实则泻。呜呼！虚实者，诊病之标的，而补泻者，施治之大要也哉。长沙以还，明哲辈出，家擅专门，人立异见，诸说旁午，多歧亡羊。至若张戴人、薛立斋之学之术，可谓百世之宗师矣。而究其设施之方，则戴人偏于泻，而立斋偏于补。既有所偏，则不能无弊。苟不能无弊，则又不可无辨焉。予窃为二君之术，一补一泻，虽有不同，而各极其至，庶乎圣之功，亦莫以加焉。然天下之病，未必尽实，则其偏于泻也，吾恐虚者之反受其害也；未必尽虚，则其偏于补也，吾恐实者之亦反受其害也。一得一失，明于此而暗于彼，此岂斯道之大成哉！若长沙则不然，可以补则补，而不偏于补；可以泻则泻，而不偏于泻。虚实随证，补泻应机，呜呼！亦可谓大成矣。拟诸古之圣贤，二君之于长沙，犹夷惠之于孔子也。盖补泻之不可偏废，犹裘葛之不可一施也。而今不核虚与实，而致补泻之各偏，犹不审冬夏之异候，而欲偏裘葛之御也。岂其理也哉。故曰：少阴病，下利清谷，里寒外热者，通脉四逆汤主之。又曰：少阴病，自利清水，色纯青者，宜大承气汤。补泻不可偏废也，可见矣。方今之世，好补而恶泻，喜温而畏寒，大黄芒硝，视如蛇蝎，干姜附子，甘如饴蜜。遇硝黄奏效，则曰：此惟取一时之快，后必致寒中之患。姜附犹不验，归之于命。盖亦不思之甚也。故凡治疗之书，偏于补者，盛行于世，而梨枣日广。至于戴人此书，传诵甚罕，予窃童蒙学医者，咕哔偏补之书，而不讲泻实之方，则虚虚实实，其弊将有不可胜言者。乃鳩工寿梓，以广其传。惟冀此书，与立斋之书，并行于世，可以泻则师戴人，可以补则师立斋，无致补泻之偏胜，使斯民同跻于仁寿之域矣！

正德辛卯八月望日

渡边荣元安甫书于洛阳松下睡鹤轩

重刊儒门事亲序

是书也，戴人张子和，专为事亲者著。论议渊微，调摄有法。其术与东垣、丹溪并传。名书之义，盖以医家奥旨，非儒不能明；药品酒食，非孝不能备也。故曰：为人子者，不可不知医。予幼失怙，慈亲在堂，逾七望八，精髓既具，未尝不防以药物。每虑当有所馈，委之时医，恐为尽道之累，将欲遍阅方书，诸家著述繁杂，窃为是皇皇者数载矣。近得是书，如获宝璐，执是以证，何虑臆说之能惑。惜其板久失传，本多亥豕之讹。因付儒医闻忠，较订锓梓，与世之事亲者共云。

嘉靖辛丑三月戊子复元道人邵辅序

儒门事亲后序

医道之大尚矣，其上医国，其下医人，而身之所系，抑岂小哉。观抱朴子之金匱、肘后，其用心亦以精矣，功亦溥矣，大矣。邵君柏崖，以玉牒之亲存，以于天下后世，乃以是书命愚机之寿诸梓，以广其传，功岂在抱朴子下哉。愚不学，恐成后人之诮，幸柏崖之去，然日夜是惧，不敢语尽以力。至于根彻鄙奥，刷谬辩非，尚俟后之君子。

嘉靖十九年岁次庚子孟冬朔日钱唐者相闻忠机于南園陋室中

目 录

卷一	(1)	卷四	(4 1)
七方十剂绳墨订一	(1)	风一	(4 1)
指风痹痿厥近世差玄说二	(3)	暑二	(4 1)
立诸时气解利禁忌式三	(6)	湿三	(4 1)
疟非脾寒及鬼神辩四	(7)	火四	(4 2)
小儿疮疱丹燥瘾疹旧蔽记五	(8)	燥五	(4 2)
证妇人带下赤白错分寒热解六	(9)	寒六	(4 2)
霍乱吐泻死生如反掌说七	(10)	解利伤寒七	(4 2)
目疾头风出血最急说八	(11)	风八	(4 3)
过爱小儿反害小儿说九	(12)	痹九	(4 3)
服药一差转成他病说十	(13)	痿十	(4 3)
卷二	(14)	厥十一	(4 3)
偶有所遇厥疾获廖记十一	(14)	痼十二	(4 3)
攻里发表寒热殊涂笺十二	(16)	疟十三	(4 3)
汗下吐三法该尽治病诠十三	(17)	泄痢十四	(4 3)
凡在上者皆可吐式十四	(18)	痞痢十五	(4 3)
凡在表者皆可汗式十五	(19)	脏毒下血十六	(4 4)
凡在下者皆可下式十六	(21)	下利脓血十七	(4 4)
推原补法利害非轻说十七	(23)	水泄不止十八	(4 4)
证口眼喎斜是经非窍辩十八	(24)	痔漏肿痛十九	(4 4)
痼本肝经宜通勿塞状十九	(25)	霍乱吐泻二十	(4 4)
五虚五实攻补悬绝法二十	(28)	大便涩滞二十一	(4 4)
卷三	(29)	五种淋沥二十二	(4 4)
喉舌缓急砭药不同解二十一	(29)	酒食不消散二十三	(4 4)
五积六聚治同郁断二十二	(30)	酒食所伤二十四	(4 4)
斥十膈五噎浪分支派疏二十三	(31)	沉积水气二十五	(4 5)
饮当去水温补转剧论二十四	(32)	诸积不化二十六	(4 5)
嗽分六气毋拘以寒述二十五	(33)	骨蒸热劳二十七	(4 5)
九气感疾更相为治衍二十六	(34)	虚损二十八	(4 5)
三消之说当从火断二十七	(36)	上喘中满二十九	(4 5)
虫蠹之生湿热为主诀二十八	(38)	一切涎嗽三十	(4 5)
补论二十九	(39)	咳嗽三十一	(4 5)
水解三十	(41)	咳逆三十二	(4 5)

风痰三十三	(45)	大产七十	(49)
咯血衄血嗽血三十四	(45)	产后心风七十一	(49)
消渴三十五	(45)	乳汁不下七十二	(49)
雷头三十六	(46)	产后潮热七十三	(49)
头痛不止三十七	(46)	乳痈七十四	(49)
两目暴赤三十八	(46)	双身大小便不利七十五	(50)
目肿三十九	(46)	双身病疟七十六	(50)
病目经年四十	(46)	双身伤寒七十七	(50)
风冲泣下四十一	(46)	身重瘖哑七十八	(50)
风蛀牙疼四十二	(46)	怀身入难七十九	(50)
口疮四十三	(46)	眉炼八十	(50)
喉闭四十四	(46)	牙疳八十一	(50)
瘰四十五	(46)	夜啼八十二	(50)
背疽四十六	(46)	丹瘤八十三	(50)
瘰癧四十七	(46)	疳眼八十四	(50)
便痢四十八	(47)	身瘦肌热八十五	(50)
恶疮四十九	(47)	大小便不利八十六	(51)
下疳五十	(47)	久泻不止八十七	(51)
卷五	(47)	通身浮肿八十八	(51)
疮疖瘤肿五十一	(47)	发惊潮搐八十九	(51)
疮肿丹毒五十二	(47)	拗哭不止九十	(51)
冻疮五十三	(47)	身热吐下九十一	(51)
金疮五十四	(47)	风热涎嗽九十二	(51)
误吞铜铁五十五	(48)	水泻不止九十三	(51)
鱼刺麦芒五十六	(48)	疮疥风癣九十四	(51)
蛇虫所伤五十七	(48)	甜疮九十五	(51)
杖疮五十八	(48)	白秃疮九十六	(51)
禁蝎五十九	(48)	疟疾不愈九十七	(51)
落马坠井六十	(48)	腰痛气刺九十八	(52)
妇人月事沉滞六十一	(48)	赤瘤丹肿九十九	(52)
血崩六十二	(48)	疮疱瘾疹一百	(52)
腰胯疼痛六十三	(48)	卷六	(52)
头风眩运六十四	(48)	风形	(52)
经血暴下六十五	(48)	因惊风搐一	(52)
赤白带下六十六	(49)	风搐反张二	(52)
月事不来六十七	(49)	飧泄三	(52)
妇人无子六十八	(49)	因风鼻塞四	(53)
小产六十九	(49)	风痰五	(53)

癩六	(5 3)	劳嗽四十一	(5 8)
手足风裂七	(5 3)	劳嗽咯血四十二	(5 8)
胃脘痛八	(5 3)	吐血四十三	(5 8)
搐搦九	(5 3)	呕血四十四	(5 9)
面肿风十	(5 3)	因药燥热四十五	(5 9)
惊风十一	(5 3)	肺癰四十六	(5 9)
风温十二	(5 3)	痿四十七	(5 9)
风水十三	(5 4)	口疮四十八	(5 9)
小儿风水十四	(5 4)	虚劳四十九	(5 9)
肾风十五	(5 4)	心痛五十	(6 0)
劳风十六	(5 4)	伤寒极热五十一	(6 0)
中风十七	(5 4)	失笑五十二	(6 0)
暑形	(5 4)	赤目五十三	(6 0)
中暑十八	(5 4)	目昏五十四	(6 0)
瘡疔十九	(5 5)	痾后呕吐五十五	(6 0)
火形	(5 5)	热厥头痛五十六	(6 0)
马刀二十	(5 5)	产前喘五十七	(6 0)
项疮二十一	(5 5)	血崩五十八	(6 1)
代指痛二十二	(5 5)	妇人二阳病五十九	(6 1)
瘰癧二十三	(5 5)	月闭寒热六十	(6 1)
咽喉肿塞二十四	(5 5)	恶寒实热六十一	(6 1)
舌肿二十五	(5 5)	遇寒手热六十二	(6 1)
腰胯痛二十六	(5 6)	呕逆不食六十三	(6 1)
狂二十七	(5 6)	瘰癧六十四	(6 1)
痰厥二十八	(5 6)	牙痛六十五	(6 1)
滑泄干呕二十九	(5 6)	淋六十六	(6 2)
笑不止三十	(5 7)	口臭六十七	(6 2)
隔食中满三十一	(5 7)	湿形	(6 2)
目盲三十二	(5 7)	疔六十八	(6 2)
小儿悲哭不止三十三	(5 7)	水疔六十九	(6 2)
小儿手足搐搦三十四	(5 7)	留饮七十	(6 2)
目赤三十五	(5 7)	黄疸七十一	(6 2)
热形	(5 7)	黄病七十二	(6 2)
沙石淋三十六	(5 7)	病发黄七十三	(6 2)
膏淋三十七	(5 8)	水肿七十四	(6 3)
二阳病三十八	(5 8)	涌水七十五	(6 3)
小儿面上赤肿三十九	(5 8)	停饮肿满七十六	(6 3)
头热痛四十	(5 8)	湿痹七十七	(6 3)

屈膝有声七十八	(6 4)	肠澼下血一百十二	(7 0)
白带七十九	(6 4)	水肿睾丸一百十三	(7 0)
湿嗽八十	(6 4)	伏惊一百十四	(7 0)
泻儿八十一	(6 4)	孕作病治一百十五	(7 0)
湿癣八十二	(6 4)	杖疮一百十六	(7 0)
湿蠱疮八十三	(6 4)	落马发狂一百十七	(7 1)
泄泻八十四	(6 4)	太阳胫肿一百十八	(7 1)
洞泄八十五	(6 5)	足闪脇痛一百十九	(7 1)
大便少而频八十六	(6 5)	膝膈跛行一百二十	(7 1)
暑泄八十七	(6 5)	杖疮入水一百二十一	(7 1)
腹满面肿八十八	(6 5)	卷八	(7 1)
卷七	(6 5)	内积形	(7 1)
燥形	(6 5)	伤冷酒一百二十二	(7 1)
臂麻不便八十九	(6 5)	心下沉积一百二十三	(7 2)
大便燥结九十	(6 6)	茶癖一百二十四	(7 2)
孕妇便结九十一	(6 6)	腹胀水气一百二十五	(7 2)
偏头痛九十二	(6 6)	瘰气一百二十六	(7 2)
腰膝痛九十三	(6 6)	胸膈不利一百二十七	(7 2)
寒形	(6 7)	冷疾一百二十八	(7 2)
因寒腰强不能屈伸九十四	(6 7)	积块一百二十九	(7 2)
寒疝亦名水疝九十五	(6 7)	肥气积一百三十	(7 2)
感风寒九十六	(6 7)	伏瘕一百三十一	(7 3)
冻疮九十七	(6 8)	停饮一百三十二	(7 3)
寒痰九十八	(6 8)	积气一百三十三	(7 3)
泻利恶寒九十九	(6 8)	沉积疑胎一百三十四	(7 3)
内伤形	(6 8)	是胎非积一百三十五	(7 3)
因忧结块一百	(6 8)	外积形	(7 3)
病怒不食一百一	(6 8)	瘤一百三十六	(7 3)
不寐一百二	(6 8)	胶瘤一百三十七	(7 3)
惊一百三	(6 8)	瘰一百三十八	(7 4)
儿寐不寤一百四	(6 9)	痔一百三十九	(7 4)
孕妇下血一百五	(6 9)	卷九	(7 4)
收产伤胎一百六	(6 9)	杂记九门	(7 4)
怀恐胁痛一百七	(6 9)	误中涌法 嗽	(7 4)
背疽一百八	(6 9)	疥	(7 4)
肺痈一百九	(6 9)	赤目	(7 4)
咽中刺塞一百十	(6 9)	感风寒	(7 4)
误吞物咽中一百十一	(7 0)		

误中寒凉 经闭	(74)	肝之经足厥阴风乙木	(73)
下血	(74)	胆之经足少阳风甲木	(78)
痢	(74)	心之经手少阴暑丁火	(79)
临变不惑 涌法	(74)	小肠经手太阳暑丙火	(79)
涌嗽	(75)	脾之经足太阴湿己土	(79)
当禁不禁病愈后犯禁而死	(75)	胃之经足阳明湿戊土	(79)
不忌反忌不忌口得愈	(75)	心包络手厥阴为母血	(79)
不可忌口	(75)	三焦经手少阳为父气	(79)
高技常孤	(75)	大肠经手阳明燥庚金	(79)
君言难正 谤吐	(75)	肺之经手太阴燥辛金	(79)
谤三法	(75)	肾之经足少阴寒癸水	(79)
谤峻药	(76)	膀胱经足太阳寒壬水	(79)
病人负德愈后吝财	(76)	六门病证药方	(80)
同类妒才群口诬戴人	(76)	内经湿变五泄	(80)
卷十	(76)	胃泄风湿	(80)
撮要图	(76)	脾泄暑湿	(80)
风木郁之病	(77)	大肠泄燥湿	(80)
暑火郁之病	(77)	小肠泄热湿	(80)
泾土郁之病	(77)	大瘕泄寒湿	(80)
燥金郁之病	(77)	金匱十全之法	(80)
寒水郁之病	(77)	金匱十全五泄法后论	(81)
初之气	(77)	卷十一	(82)
二之气	(77)	风论	(82)
三之气	(77)	论火热二门	(83)
四之气	(77)	湿热门	(84)
五之气	(77)	风门	(85)
终之气	(77)	湿门	(87)
风木肝酸 达针	(77)	寒门	(88)
暑火心苦 发汗	(78)	内伤	(88)
湿土脾甘 夺针	(78)	外伤治法	(88)
燥金肺辛 清针	(78)	妇人风门	(88)
寒水肾咸 折针	(78)	火类门	(89)
大寒子上初之气	(78)	湿门	(89)
春分卯上二之气	(78)	寒门	(90)
小满巳上三之气	(78)	半产	(90)
大暑未上四之气	(78)	小儿风门	(90)
秋分酉上五之气	(78)	二火类	(90)
小雪亥上终之气	(78)	卷十二	(91)

吐剂	(9 1)	牛黄白术丸	(9 3)
三圣散	(9 1)	玉烛散	(9 3)
瓜蒂散	(9 1)	三和汤	(9 3)
稀涎散	(9 1)	丁香化癖散	(9 3)
蔚金散	(9 1)	抵当汤	(9 3)
茶调散	(9 1)	抵当丸	(9 3)
独圣散	(9 1)	十枣汤	(9 4)
碧云散	(9 1)	除湿丹	(9 4)
常山散	(9 2)	利膈丸	(9 4)
青黛散	(9 2)	三一承气汤	(9 4)
汗剂	(9 2)	大陷胸汤	(9 4)
防风通圣散	(9 2)	小陷胸汤	(9 4)
双解散	(9 2)	握宣丸	(9 4)
浮萍散	(9 2)	风门	(9 4)
升麻汤	(9 2)	防风天麻散	(9 4)
麻黄汤	(9 2)	防风汤	(9 4)
桂枝汤	(9 2)	祛风丸	(9 4)
下剂	(9 2)	排风汤	(9 4)
导水丸	(9 2)	小续命汤	(9 4)
禹功散	(9 2)	消风散	(9 4)
通经散	(9 2)	川芎散	(9 5)
神祐丸	(9 2)	搜风丸	(9 5)
琥珀丸	(9 2)	当归川芎散	(9 5)
益胃散	(9 2)	愈风饼子	(9 5)
大承气汤	(9 2)	疏风丸	(9 5)
小承气汤	(9 3)	通顶散	(9 5)
调胃承气汤	(9 3)	胃风汤	(9 5)
桃仁承气汤	(9 3)	香芎散	(9 5)
玉井散	(9 3)	铁弹丸	(9 5)
水煮桃红丸	(9 3)	暑门 疰附	(9 5)
无忧散	(9 3)	白虎汤	(9 5)
泄水丸	(9 3)	桂苓甘露散	(9 5)
牛黄通膈丸	(9 3)	化痰玉壶丸	(9 5)
四生丸	(9 3)	益元散	(9 5)
内托散	(9 3)	玉露散	(9 5)
藏用丸	(9 3)	石膏散	(9 5)
神芎丸	(9 3)	辰砂丹	(9 5)
进食丸	(9 3)	温脾丸	(9 6)

温脾散	(9 6)	二姜汤	(9 8)
湿门 嗽附	(9 6)	术附汤	(9 8)
五苓散	(9 6)	大已寒丸	(9 8)
葶苈木香散	(9 6)	理中丸	(9 8)
白术木香散	(9 6)	平胃散	(9 8)
大橘皮汤	(9 6)	养脾丸	(9 8)
神助散	(9 6)	兼治于内者	(9 8)
桂苓白术丸	(9 6)	大柴胡汤	(9 8)
桂苓白术散	(9 6)	小柴胡汤	(9 8)
白术调中汤	(9 6)	柴胡饮子	(9 8)
宁神散	(9 6)	防风当归饮子	(9 8)
宁肺散	(9 6)	白术汤	(9 8)
人参补肺散	(9 6)	兼治于外者	(9 9)
白术汤	(9 6)	桂苓汤 麻黄汤 升麻汤	(9 9)
薏苡仁汤	(9 6)	五积散	(9 9)
益黄散	(9 6)	青衿散	(9 9)
香连丸	(9 7)	独治于内者	(9 9)
火门	(9 7)	陷胸汤	(9 9)
凉膈散	(9 7)	大黄丸	(9 9)
黄连解毒汤	(9 7)	备急丸	(9 9)
泻心汤	(9 7)	枳壳丸	(9 9)
八正散	(9 7)	莲壳散	(9 9)
调胃散	(9 7)	木香槟榔丸	(9 9)
三黄丸	(9 7)	导饮丸	(9 9)
芍药鞣皮丸	(9 7)	五香连翘散	(9 9)
大金花丸	(9 7)	四物汤	(9 9)
清凉饮子	(9 7)	当归散	(9 9)
黄连清心汤	(9 7)	又当归散	(9 9)
犀角散	(9 7)	葛根散	(9 9)
黄连木通丸	(9 7)	定志丸	(9 9)
燥门	(9 7)	槟榔丸	(100)
神功丸	(9 7)	小槟榔丸	(100)
脾约丸	(9 7)	瞿麦散	(100)
麻仁丸	(9 7)	治气积方	(100)
润体丸	(9 8)	独治于外者	(100)
寒门	(9 8)	青金散	(100)
姜附汤	(9 8)	拔毒散	(100)
四逆汤	(9 8)	水澄膏	(100)

鱼胆丸	(100)	三黄丸	(106)
金丝膏	(100)	人参白术散	(106)
生肌散	(100)	人参散	(107)
赴筵散	(100)	卷十四	(107)
麝香玉线子	(100)	扁鹊、华佗察声色定死生诀要	(107)
化癭丹	(100)	诊百病死生诀第七	(108)
通气丸	(100)	病机	(110)
又方	(100)	标本运气歌	(110)
消毒散	(101)	辨十二经水火分治法	(110)
煮肝散	(101)	治病	(111)
枯瘤方	(101)	六陈	(111)
小黄膏	(101)	十八反	(111)
刃箭药	(101)	运气歌	(111)
木香槟榔散	(101)	五不及	(111)
阳起石散	(101)	断病人生死	(111)
砒白霜散	(101)	四因	(111)
雄黄散	(101)	五苦六辛	(111)
化斑汤	(101)	卷十五	(111)
调治	(101)	疮疡痈肿第一	(111)
无比山药丸	(101)	口齿咽喉第二	(116)
当归丸	(101)	目疾证第三	(116)
香薷汤	(101)	头面风疾第四	(118)
石苇散	(101)	解利伤寒第五	(119)
妙功丸	(101)	诸腰脚疼痛第六	(119)
人参散	(101)	妇人病证第七	(119)
茴香丸	(101)	咳嗽痰涎第八	(120)
七宣丸	(102)	心气疼痛第九	(121)
人参调中汤	(102)	小肠疝气第十	(121)
乌金散	(102)	肠风下血第十一	(122)
沉香降气丸	(102)	小儿病证第十二	(123)
枳术丸	(102)	破伤风邪第十三	(123)
卷十三	(102)	诸风疾证第十四	(124)
刘河间先生三消论	(102)	水肿黄疸第十五	(125)
神白散	(106)	下痢泄泻第十六	(126)
猪肚丸	(106)	诸杂方药第十七	(126)
葛根丸	(106)	避谷绝食第十八	(127)
胡粉散	(106)		

卷一

七方十剂绳墨订一

方有七，剂有十，旧矣。虽有说者，辩其名而已，敢申昔人已创之意而为之订。夫方者，犹方术之谓也。易曰：方以类聚。是药之为方，类聚之义也。或曰：方，谓五方也。其用药也，各据其方。如东方濒海卤斥，而为痲痒；西方陵居华食，而多颜脰赘癭；南方瘴务卑湿，而多痹疝；北方乳食，而多藏寒满病；中州食杂，而多九疸、食癆、中满、留饮、吐酸、腹胀之病。盖中州之地，土之象也，故脾胃之病最多。其食味居处，情性寿夭，兼四方而有之。其用药也，亦杂诸方而疗之。如东方之藻带，南方之丁木，西方之姜附，北方之参苓，中州之麻黄、远志，莫不辐辏而参尚。故方不七，不足以尽方之变；剂不十，不足以尽剂之用。剂者，和也。方者，合也。故方如瓦之合，剂犹羹之和也。方不对病则非方，剂不蠲疾则非剂也。七方者，大、小、缓、急、奇、偶、复也。十剂者，宣、通、补、泻、轻、重、滑、涩、燥、湿也。

夫大方之说有二，有君一臣三佐九之大方，有分两大而顿^①服之大方。盖治肝及在下而远者，宜顿服而数少之大方；病有兼证而邪不专，不可以一二味治者，宜君一臣三佐九之大方。王太仆以人之身三折之，上为近，下为远。近为心肺，远为肾肝，中为脾胃。胞膈胆，亦有远近。以予观之，身半以上，其气三，天之分也；身半以下，其气三，地之分也；中脘，人之分也。又手之三阴阳，亦天也；其气高；足之三阴阳，亦地也；其气下；戊己之阴阳，亦人也；其气犹中州。故肝之三服，可并心之七服；肾之二服，可并脾之七服也。

小方之说亦有二，有君一臣二之小方，有分两微而频服之小方。盖治心肺及在上而近者，宜分两微而少服而频之小方，徐徐而呬之是也。病无兼证，邪气专，可一二味而治者，宜君一臣二之小方。故肾之二服，可分为脾之九服，及

肝之三服也。

缓方之说有五，有甘以缓之之缓方，糖、蜜、枣、葵、甘草之属是也。盖病在胸膈，取甘能恋也。有丸以缓之之缓方，盖丸之比汤散，其气力宣行迟故也。有品件群众之缓方，盖药味众，则各不得骋其性也。如万病丸，七八十味递相拘制也。有无毒治病之缓方，盖性无毒则功自缓矣。有气味薄药之缓方，盖药气味薄，则长于补上治上，比至其下，药力已衰。故补上治上，制之以缓。缓则气味薄也。故王太仆云：治上补上，方若迟急，则上不任而迫走于下。制缓方而气味厚，则势与急同。

急方之说有四^②，有急病急攻之急方，如心腹暴痛，两阴洩便闭塞不通，筹备急丹以攻之。此药用不宜恒，盖病不容俟也。又如中风牙关紧急，浆粥不入，用急风散之属亦是也。有汤散荡涤之急方，盖汤散之比丸，下咽易散而施用速也。有药性有毒之急方，盖有毒之药，能上涌下泄，可以夺病之大势也。有气味厚药之急方，药之气味厚者，直趣于下，而气力不衰也。故王太仆云：治下补下，方之缓慢，则滋道路而力又微，制急方而气味薄，则力与缓等。

奇方之说有二，有古之单方之奇方，独用一物是也。病在上而近者，宜奇方也。有数合阳数之奇方，谓一、三、五、七、九，皆阳之数也。以药味之数皆单也。君一臣三，君三臣五，亦合阳之数也。故奇方宜下不宜汗。

偶方之说有三，有两味相配之偶方，有古之复方之偶方，盖方之相合者是也。病在下而远者，宜偶方也。有数合阴阳^③之偶方，谓二、四、六、八、十也，皆阴之数也。君二臣四，君四臣六，亦合阴之数也。故偶方宜汗不宜下。

复方之说有二，方有二方三方相合之复方，如桂枝二越婢一汤，如调胃承气汤，芒硝、甘

① 顿：原作“顿”，文义不通，据《四库》珍本改。

② 四：原作“五”，清石印本为“四”。下文论急方只有四说，故据清石印本改。

③ 阳：以文义，当为“数。”

草、大黄外，参以连翘、薄荷、黄芩、栀子，以为凉膈散。是本方之外，别加余味者，皆是也。有分两均剂之复方，如胃风汤各等分是也。以《内经》考之，其奇偶四则，反以味数奇者为奇方，味数偶者为偶方。下复云：汗者不以奇，下者不以偶。及观仲景之制方，桂枝汤，汗药也，反以三味为奇；大承气汤，下药也，反以四味为偶。何也？岂临事制宜，复有增损者乎！考其大旨，王太仆所谓汗药如不以偶，则气不足以外发；下药如不以奇，则药毒攻而致过，必如此言。是奇则单行，偶则并行之谓也。急者下本易行，故宜单；汗或难出，故宜并。盖单行则力孤而微，并行则力齐而大。此王太仆之意也。然太仆又以奇方为古之单方，偶为复方，今此七方之中，已有偶又有复者，何也？岂有偶方者，二方相合之谓也；复方者，二方四方相合之方欤。不然，何以偶方之外，又有复方者欤？此“复”字非“重复”之“复”，乃“反复”之“复”。何以言之？盖《内经》既言奇偶之方，不言又有重复之方，惟云“奇之不去则偶之，是为重方。”重方者，即复方也。下又云“偶之不去，则反佐以取之。”所谓寒热温凉，反从其病也。由是言之，复之为方，反复，亦不远《内经》之意也。

所谓宣剂者，俚人皆以宣为泻剂，抑不知十剂之中，已有泻剂。又有言宣为通者，抑不知十剂之中，已有通剂。举世皆曰春宜宣，以为下夺之药。抑不知仲景曰：大法春宜吐。以春则人病在头故也。况十剂之中，独不见通剂，岂非宣剂，即所谓涌剂者乎。《内经》曰：“高者因而越之”，“木郁则达之”。宣者，升而上也，以君召臣曰宣，义或同此。伤寒邪气在上，宜瓜蒂散。头痛，葱根豆豉汤。伤寒懊憹，宜栀子豆豉汤。精神昏愤，宜栀子厚朴汤。自瓜蒂以下，皆涌剂也，乃仲景不传之妙。今人皆作平剂用之，未有发其秘者。予因发之，然则为涌明矣。故风痼中风，胸中诸实痰饮，寒结胸中，热蘖化上，上而不下，久则嗽喘满胀，水

肿之病生焉，非宣剂莫能愈也。

所谓通剂者，流通之谓也。前后不得洩便，宜木通、海金沙、大黄、琥珀、八正散之属；里急后重，数至圜而不便，宜通因通用。虽通与泻相类，大率通为轻，而泻为重也。凡痹麻蔚滞，经隧不流，非通剂莫能愈也。

所谓补剂者，补其不足也。俚人皆知山药丸、鹿茸丸之补剂也，然此乃衰老下脱之人，方宜用之。今往往于少年之人用之，其舛甚矣。古之甘平、甘温、苦温、辛温，皆作补剂，岂独硫黄、天雄，然后为补哉。况五脏各有补泻，肝实泻心，肺虚补肾。经曰：东方实，西方虚，泻南方，补北方。大率虚有六：表虚、里虚、上虚、下虚、阴虚、阳虚。设阳虚则以干姜、附子，阴虚则补以地黄、硝石。世传以热为补，以寒为泻，讹非一日。岂知酸苦甘辛咸，各补其脏。《内经》曰：精不足者，补之以味。善用药者，使病者而进五谷者，真得补之道也。若大邪未去，方满方闷，心火方实，肾水方耗，而骤言鹿茸、附子，庸詎知所谓补剂者乎！

所谓泻剂者，泄泻之谓也。诸痛为实，痛随利减。经曰：实则泻之。实则散而泻之。中满者，泻之于内。大黄、牵牛、甘遂、巴豆之属，皆泻剂也。惟巴豆不可不慎焉，盖巴豆其性燥，热毒不去，变生他疾。纵不得已而用之，必以他药制其毒。盖百千证中，或可一二用之。非有暴急之疾，大黄、牵牛、甘遂、芒硝足矣。今人往往以巴豆热而不畏，以大黄寒而反畏，庸詎知所谓泻剂者哉！

所谓轻剂者，风寒之邪，始客皮肤，头痛身热，宜轻剂消风散，升麻、葛根之属也。故《内经》曰：因其轻而扬之。发扬所谓解表也。疥癬座痹，宜解表。汗以泄之，毒以薰之，皆轻剂也。故桂枝、麻黄、防风之流亦然。设伤寒冒风，头痛身热，三日内用双解散及嚏药解表出汗，皆轻剂之云耳。

所谓重剂者，镇坠之谓也。其药则硃砂、水银、沉香、水石、黄丹之伦，以其体重故也。久

病咳嗽，涎潮于上，咽喉不利，形羸不可峻攻，以此缢之。故《内经》曰：重者，因而减之。贵其渐也。

所谓滑剂者，《周礼》曰：滑以养窍。大便燥结，小便淋涩，皆宜滑剂。燥结者，其麻仁、郁李之类乎！淋涩者，其葵子、滑石之类乎！前后不通者，前后两阴俱闭也，此名曰三焦约也。约，犹束也。先以滑剂润养其燥，然后攻之，则无失矣。

所谓涩剂者，寝汗不禁，涩以麻黄根、防己；滑泄不已涩以豆蔻、枯白矾、木贼、乌鱼骨、罌粟壳。凡酸味亦同乎涩者，收敛之意也。喘嗽上奔，以蠶汁、乌梅煎宁肺者，皆酸涩剂也。然此数种，当先论其本，以攻去其邪，不可执一以涩，便为万全也。

所谓有燥剂者，积寒久冷，食已不饥，吐利腥秽，屈伸不便，上下所出水液，澄澈清冷，此为太寒之故，宜用干姜、良姜、附子、胡椒辈以燥之。非积寒之病，不可用也。若久服，则变血溢、血泄、大枯大涸、洩便癰闭、聋瞽痿弱之疾。设有久服而此疾不作者，慎勿执以为是。盖疾不作者或一、二，误死者百千也。若病湿者，则白术、陈皮、木香、防己、苍术等，皆能除湿，亦燥之平剂也。若黄连、黄柏、梔子、大黄，其味皆苦，苦属火，皆能燥湿。此《内经》之本旨也，而世相违久矣。呜呼！岂独姜附之俦，方为燥剂乎？

所谓湿剂者，润湿之谓也。虽与滑相类，其间少有不同。《内经》曰：辛以润之。盖辛能走气，能化液故也。若夫硝性虽咸，本属真阴之水，诚濡枯之上药也。人有枯涸皱揭之病，非独金化为然。盖有火以乘之，非湿剂莫能愈也。

指风痹痿厥近世差玄说二

风痹痿厥四论，《内经》言之详矣。今余又为之说，不亦赘乎。曰：非赘也。为近世不读《内经》者，指其差玄也。夫风痹痿厥四证，本自不同，而近世不能辨，一概作风冷治之，下虚补之，此所以旷日弥年而不愈者也。夫四末

之疾，动而或劲者为风，不仁或痛者为痹，弱而不用者为痿，逆而寒热者为厥，此其状未尝同也。故其本源，又复大异。风者，必风热相兼；痹者，必风湿寒相合；痿者，必火乘金；厥者，或寒或热，皆从下起。今之治者，不察其源，见其手足挛曳，便谓之风。然《左传》谓风淫末疾，岂不知风、暑、燥、湿、火、寒六气，皆能为四末之疾也哉。敢详条于下，有意于救物者，试择焉可也。夫风之为状，善行而数变。《内经》曰：诸风掉眩，皆属肝木。掉摇眩运，非风木之象乎？纤曲劲直，非风木之象乎？手足掣颤，斜目喎口，筋急挛搐，痲疯惊癇，发作无时，角弓反张，甚则吐沫，或泣或歌，喜怒失常，顿僵暴仆，昏不知人，兹又非风木之象乎？故善行而数变者，皆是厥阴肝之用也。夫肝木所以自甚而至此者，非独风为然。盖肺金为心火所制，不能胜木故也。此病之作，多发于每年十二月，大寒中气之后，及三月四月之交，九月十月之交。何以言之？大寒中气之后，厥阴为主气，巳亥之月，亦属厥阴用事之月，皆风主之时也。故三月四月之交，多疾风暴雨，振拉摧拔，其化为冰雹。九月十月之交，多落木发屋之变。故风木郁极甚者，必待此三时而作。凡风病之人，其脉状如弓弦而有力，岂敢以热药投之，更增其势哉！今人论方者，偶得一方，间曾获效，执以为能。著灸施针，岂由病者。巧说病人，使从己法，不同品味刚柔，君臣轻重，何藏何经，何部何气。凡见风证偏枯，口眼喎斜，涎潮昏愤，便服灵宝、至宝、清心、续命等药，岂知清心之杂以姜、桂，灵宝之乱以起石、硫黄，小续命汤藏以附子。惟夫至宝，其性尚温。经曰：风淫于内，治以辛凉。如之何以金石大热之药，以治风耶？有以热治热者，一之为甚，其可再乎。故今之刘河间自制防风通圣散、搜风丸之类，程参政祛风丸、换骨丹，用之者获效者多矣。而谤议百出，以诬其实。余尝见《内经·气交变论》中言五郁之法，郁极则为病。况风病之作，仓卒之变生。尝治惊风

痼病，屢用汗、下、吐三法，隨治隨愈。《內經》中明有此法，五郁中木郁達之者，吐之令其條達也；汗者，是風隨汗出也；下者，是推陳致新也。此為汗、下、吐三法也。愈此風病，莫知其數，如之何廢而不用也？余恐來者侮此法，故表而出之。昔項開完顏氏風，病瘡，先右臂并右足，約搗六七十數。良久，左臂并左足，亦搗六七十數，不瘥。兩目直視，昏憤不識人，几月余。求治於余，先逐其寒痰三四升，次用導水禹功丸、散，泄二十余行。次服通聖散辛涼之劑，不數日而瘥，故書此以証之。

夫痹之為狀，麻木不仁，以風濕寒三氣合而成之。故《內經》曰：風氣勝者為行痹。風則陽受之，故其痹行，旦劇而夜靜。世俗莫知，反呼為走注疼痛虎咬之疾。寒氣勝者為痛痹，寒則陰受之，故其痹痛，旦靜而夜劇。世欲不知，反呼為鬼忤。濕氣勝者為著痹，濕勝則筋脉皮肉受之，故其痹著而不去，肌肉削而著骨。世欲不知，反呼為偏枯。此疾之作，多在四時陰雨之時，及三月九月，太陽寒水用事之月，故草枯水寒為甚。或瀕水之地，勞力之人，辛苦失度，觸冒風雨，寢處津濕，痹從外入。況五方土地，寒暑殊氣，剛柔異稟，飲食起居，莫不相戾，故所受之邪，各有淺深。或痛或不痛，或仁或不仁，或筋屈而不能伸，或引而不縮。寒則虫行，熱則縱緩，不相亂也。皮痹不已，而成肉痹；肉痹不已，而成脉痹；脉痹不已，而成筋痹；筋痹不已，而成骨痹。久而不已，內舍其合。若臟腑俱病，雖有智者，不能善圖也。凡病痹之人，其脉沉澀。今人論方者見諸痹証，遽作脚氣治之，豈知《內經》中，本无脚氣之說。或曰：諸方亦有脚氣統論，又有脚氣方药，若止取《素問》，則諸方皆非耶？曰：痹病以濕熱為源，風寒為兼，三氣合而為痹。奈何治此者，不問經絡，不分臟腑，不辨表里，便作寒濕脚氣。烏之附之，乳之沒之，種種燥熱攻之，中脘灸之，脐下燒之，三里火之，蒸之熨之，湯之炕之，以至便旋澀滯，前後俱閉，虛燥轉甚，

肌肉日削，食飲不入，邪氣外侵，雖遇扁、華，亦難措手。若此者何哉？胸膈間有寒痰之故也。痹病本不死，死者醫之誤也。雖亦用蒸之法，必先涌去其寒痰，然後諸法皆效。《內經》曰：五臟有俞穴，六腑有合穴。循脉之本分，各有所發之源。以砭石補之，則痹病瘳。此其《內經》中明白具載，如之何不讀也。陳下酒監魏德新，因赴冬選，犯寒而行。真氣元衰，加之坐卧冷濕，食飲失節，以冬遇此，遂作骨痹。骨屬腎也，腰之高骨坏而不用，兩膀似折，面黑如炭，前後廉痛，痿厥嗜卧。遍問諸醫，皆作腎虛治之。余先以玲瓏灶熨蒸數日，次以苦劑，上涌訖，寒痰三二升。下虛上實，明可見矣。次以淡劑，使白朮除脾濕，令茯苓養腎水，責官桂伐風木。寒氣偏勝，則加姜、附，否則不加。又刺腎俞、太溪二穴，二日一刺。前后一月，平复如故。仆嘗用治傷寒汗下吐三法，移為治風痺痿厥之法，愈者多矣。

痿之為狀，兩足痿弱，不能行用。由腎水不能勝心火，心火上烁肺金。肺金受火制，六叶皆焦，皮毛虛弱，急而薄著，則生痿躄。躄者，足不能伸而行也。腎水者，乃肺金之子也。今腎水衰少，隨火上炎。腎主兩足，故骨髓衰竭，由使內太過而致然。《至真要大論》云諸痿喘呕，皆属于上者，上焦也。三焦者，手少阳相火也。痿、喘、呕三病，皆在膈上，属肺金之部分也。故肌痹傳为脉痿；濕痹不仁，傳为肉痿；髓竭足躄，傳为骨痿；房室太^①过为筋痿，傳为白淫。大抵痿之為病，皆因客熱而成。好以貪色，強力过极，漸成痿疾。故痿躄属肺，脉痿属心，筋痿属肝，肉痿属脾，骨痿属腎。总因肺受火熱，叶焦之故，相傳于四脏，痿病成矣。直斷曰痿病无寒。故痿之作也，五月、六月、七月，皆其时也。午者，少阴君火之位。未者，濕土庚金伏火之地。申者，少阳相火之分。故痿发此三月之内，以为熱也。故病痿之人，其

① 太，原作“大”，据《四库》珍本改。